

海澄縣志等に據りて、溪蠻叢笑に見えし燕子花、此にいふ所のカキツバタ也といふなり、漳州府志も見えて、また正しく其物をも見れば如何にとも思ひ分たす、

〔八雲御抄〕上杜若 池によめり、かきつばたとて、かきによせてもよめり、其も不離水歟、萬十七、きぬにすりつけますらをのといへり、

〔大和本草〕七草、燕子花 國俗昔ヨリ杜若ヲカキツバタトス非也杜若ハヤブミヤウガト云モノ也、燕子花ハ三四月ニ花ヲ開ク、其性未詳、福州府志ニ出タリ、倭名貌吉花ト云由、藏玉ニ見エタリ、

水草ナリ、然ドモ水深クシテ葉ノ鋒マデヒタルバ枯ル、陸地ニモウフ、濃紫色ニシテ四時花開クアリ、又白花アリ、猶異品アリ、小燕子花アリ、葉莖花ノ形ハ同、莖高二三寸、花甚小ナリ、正月ニ開花、

是大ナルト異リ、濕地ニ宜シ、不宜于水中、

〔和漢三才圖會〕九十七、燕子花 加岐豆波太 漳州府志云、紫花全類燕子、一枝數葩、漳人名爲紫燕、

按燕子花其葉似白菖而大、色淡、其花實共似白菖而肥大爲紫色之正、近頃出淺紅者白色者皆變種也、五月爲盛、又有四時開花者、參州八橋之産得名、

〔増補地錦抄〕六、杜若のるひ 鷺尾 花るり、こん色、花中に白キ筋あり、芝べのごとく成ほこ三まひつ、上へ立ッ物なり、是もるり、こん色々、羅生門、花うすくろし、村雲、白花にるり、色のほし、さらさのごとくあり、

橋姫 むらくものごとくにて、るりのさらさ成ほど見事大りん也、濡鷺、花水あさぎ、薄雲、白花に村々とかすり有、四季咲、るり色、四度花咲、ごまほし、白にう

す紫のほし有、白、白に二種あり、つねのまろは花中に紫のさしうつろひ有、ぬけ白といふはうつろひもなし上々、六葉、むらさき色よし、葩六まいづ、出ル、八葉、むらさき、是